



LAYANG LAYANG

11-12月の出来事

未来を担う子供たちが低炭素社会を考える

自分たちで地球温暖化のために何ができるのか、自分たちで考えて行動する。京都市の協力により、同市の行っている“子供エコライフチャレンジ”をベースに、ジョホールバルで子供たちへの環境教育を行っています。今回は、11月13日に、子供たちが、低炭素社会実現への取り組みを寸劇や研究成果として発表しました。



小学生による日常生活での取組の説明寸劇

中学生の考えたペットボトル再利用マシーン

「低炭素社会実現に向けた人・コミュニティづくりプロジェクト」 期間：2016/2-2018/12 マ側機関：マレーシア工科大学、イスカンダル地域開発庁

横浜市のノウハウを活用、愛着の持てる生き生きした街へ



ブキマタジャン地区旧市街地のショップハウス

横浜市の協力により、ペナン州セベランプライ市ブキマタジャン地区の旧市街地において、地域の歴史や自然を生かしたまちづくりが進められています。11月には、横浜市の関係者が来訪、歴史的価値のある古いショップハウスや地区の象徴である市場の活用について、同市の職員や地域の住民と具体化を進めました。

「セベランプライ市における歴史・自然を活かしたまちづくりプロジェクト」 期間：2015/12-2018/12 マ側機関：セベランプライ市

研修員同窓会イベント「Nihon No Sekai」で日本を伝える

11月5日、マレーシア帰国研修員同窓会が、マレーシア国民大学（UKM）と共同で、日本紹介イベント「Nihon No Sekai」を開催しました。UKMの学生を中心に約800名が訪れ、日本食、浴衣試着などを通じ日本文化に触れました。元日本留学生らが日本での生活について語り、日本の生の姿を伝えました。



剣道のパフォーマンスに見入る参加者

参加者によるアニメのコスプレ

マレーシア帰国研修員同窓会：1988年設立、マレーシアの公務員を中心とした会員約4,000名

www.myjica.org/

ボルネオゾウ「タガス」が標本で復活！



サバ州ロカウィ動物園で
飼育されていた
「タガス」の骨格標本



標本作成のための共同作業

サバ州の中の限られた地域にのみ生息するボルネオゾウは、普通のアジアゾウより身体が小さく、尾が長いなどの特徴があります。起源には定説が無いものの、ボルネオの生物多様性の象徴的な種のひとつと考えられています。北海道の足寄動物化石博物館の澤村寛館長がサバ大学のスタッフに骨格標本作成を指導しており、2017年3月には完成、サバ大学で展示される予定です。

「サバ州を拠点とする生物多様性・生態系保全のための持続可能な開発プロジェクト」 期間：2013/7 - 2017/6 マ側機関：サバ大学、サバ州政府

パーム油工場排出物・エネルギーの有効活用をビジネスへ！

パーム油搾油工場から出る排出物の有効活用と環境への負荷軽減を実証し、ビジネスモデルを提案する、本プロジェクトのこれまでの成果が、12月16日、マレーシア微生物学会シンポジウム（於：マラッカ）にて発表されました。会場には約60名が集まり、日本企業8社、マレーシア企業3社も参加しました。



発表者による
パネルディスカッション
と学会の様子



「生物多様性保全のためのパーム油産業によるグリーン経済の推進プロジェクト」 期間：2013/11 - 2017/11 マ側機関：マレーシア・ブトラ大学

その他のニュース「南南協力」

- 研究活動を通じ州の開発を推進ー統合的生物多様性保全第三国研修（2016年11月28日）
https://www.iica.go.jp/malaysia/office/information/event/161128_01.html
- 質の高い税関研修管理をミャンマーと共有（2016年11月28日）
https://www.iica.go.jp/malaysia/office/information/event/161128_02.html
- 政府機関による投資促進事例を第三国研修でアフリカに紹介（2016年12月5日）
https://www.iica.go.jp/malaysia/office/information/event/161205_01.html
- カンボジアの職業訓練のレベル向上を目指してー第三国研修 高圧電気設備の保全技術（2016年12月5日）
https://www.iica.go.jp/malaysia/office/information/event/161205_02.html
- 盛りだくさんのイベントに参加ーアフリカ向け貿易振興第三国研修（2016年12月19日）
<https://www.iica.go.jp/malaysia/office/information/event/161219.html>

トピックス

マレーシアの交通事故

年明け早々、日本では2016年の交通事故による死者数が67年ぶりに4000人を切ったとのニュースが流れました。交通戦争と言われた1970年頃のピーク時に年間16000人以上が亡くなっていたことを考えると、かなりの改善だと思えます。

ここマレーシアでも例年統計が発表され、2015年の交通事故による死者数は6706人だったそうです。人口が3000万人程度であることを考えると、この数字は日本の「交通戦争」時代に匹敵、あるいはそれ以上に厳しい状況にあると言えるでしょう。実際この数字は人口比で見ると、モータリゼーションの進むASEANの中でタイやベトナムとともにワーストのグループに入るものです。統計では死者の6割超は二輪車の運転手とその同乗者とのこと。マレーシアで車を運転された方はわかるとは思いますが、ここでは二輪車の無謀運転が非常に目につきます。また、地方道での事故が多い、ハリラヤ時期の旅行に伴う事故が多いといった特徴があるようです。

全世界では毎年約130万人が交通事故により死亡し、5000万人以上が負傷していると推計されており、この傾向が続けば2020年には190万人が交通事故で死亡し、三大感染症（マラリア、結核、HIV/AIDS）を超える死亡原因になるとの予測もあります。

これに対し、国連は、2011年から2020年を「交通安全のための行動の10年」と宣言し、交通事故による死者を90万人に減らすことを2020年のターゲットとして、交通事故抑制のためのキャンペーンを行っています。マレーシア政府も運輸省を中心に「Road Safety Plan 2014-2020」を作成し、交通安全の取り組みを進めていますが、総合的な取り組みが必要とされる交通安全対策の推進には課題も多いようです。

日本は交通戦争から現在に至るまで、交通安全対策の豊富な経験を持っていますので、なんとかこの経験をマレーシアや他の国の交通事故削減に生かすことができないかと考えています。

(JICAマレーシア事務所所長 松本高次郎)



二輪車は通勤の重要な手段

JICAマレーシア及びニュースレターのバックナンバーはこちら→ <http://www.jica.go.jp/malaysia/index.html>

JICAホームページはこちらから→ <http://www.jica.go.jp/>

配信(追加、停止等)に関するご希望、ご意見、ご要望など → ms_oso_rep@jica.go.jp

JICA Malaysia Office

Level 29, Menara Citibank, 165 Jalan Ampang 50450 Kuala Lumpur Malaysia

Tel: 603-2166 8900 Fax:603-2166 5900 E mail address : ms_oso_rep@jica.go.jp